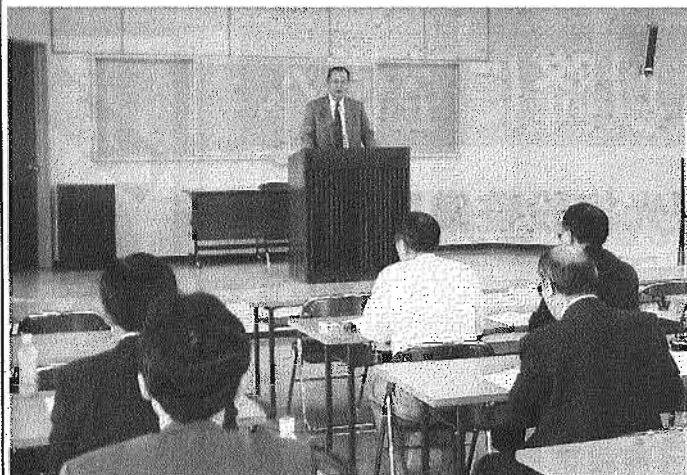


県森林土木協会が総会

労災防止を最重点に



設備の専門工事業団体として、さらなる団結を——と挨拶する肥後会長＝鹿児島市の鹿児島管工事会館で

県森林土木協会(松崎一男会長)の第41回通常総会は27日、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、労働災害の防止、治山・林道工事の技術研修の実施等を重点とする15年度事業計画を承認した。

総会では、初めに松崎会長が「昭和37年、16社の会員でスタートした当協会も現在、280社となり、関係機関の指導のもと各支部を中心に活発な活動を展開して頂いている。森林土木予算の削減など状況は厳しいが、安全で立派な仕事で発注者の要請に応えていくことが我々の使命である。今年度も労働災害防止を最重点に各種事業を展開していきたい」と挨拶。続いて、来賓の県知事、



従業員表彰等が行われた総会＝鹿児島市のジェイドガーデンパレスで

鹿屋市労働局長、全国森林土木建設業協会(いづれも代理)が各立場から祝辞を寄せた。このあと、田代藤夫氏を議長に14年度事業報告・決算、15年度事業計画・収支予算案など5議案を審議、執行部原案通り可決承認。また、役員欠員に伴う一部補充では、新しく理事に三垣豊氏(株三垣組)を選出した。

【県知事賞】▽山腹工の部(株)福地建設(福地順一)▽深間・山腹工の部(株)廣瀬建設(廣瀬孝)▽県営林道の部(株)協建建設(淵脇伸)

【県森林土木協会賞】▽山腹工の部(株)佐々木組(佐々木邦廣)▽山腹工の部(株)渡利建設(渡利キヌ子)▽県営林道の部(株)植村組(植村久)

修会、安全パトの実施②発注・監督監督官庁の指導に基づく治山・林道工事の施工技術研修、建設機械運転技能講習の実施③会員の受注量確保対策④関係図書のおっせんなどを掲げている。

表彰者、14年度治山林道工事コンクール入賞者等は次の通り。

【表彰者】▽従業員の部(株)丸新建設(池平政俊)▽丸新建設(上木三郎)▽丸新建設(浜田公男)▽平成建設(久保一廣)▽桑本組(松井義之)▽伊佐建設(小原幸則)▽岩澤組(落合義治)▽山下建設(東丸和弘)▽有川組(笑喜和則)▽桑原組(松元香月)▽南振建設(株)※治山林道工事コンクール

山腹工の部(株)木場保幸(株)福地建設(福地順一)▽深間・山腹工の部(株)藤広植(株)廣瀬建設(廣瀬孝)▽県営林道の部(株)熊谷代美(淵脇伸)



ボランティアの実施も決めた総会＝鹿屋市の大黒グランドホテルで

【鹿屋緑化建設業協会】鹿屋緑化建設業協会(前原盛男会長、株前原造園土木)は21日、鹿屋市の大黒グランドホテルで15年度第22回通常総会を開き、新年度活動計画及び予算案など執行部原案通り可決承認した。

初めに前原会長が「自分達で仕事を提案し、つくっていかねば生き残れない。受注高を高めるために一致団結して情報収集など図り難局を乗り越えていきましょう」と挨拶。続いて、同会長を議長

に、台風被害のあった公園などの倒木復旧作業などの14年度活動報告及び工事受注高報告と収支決算、15年度活動計画及び予算案など5号までの議案を審議、全会一致で可決承認したほか、新年度活動報告には、研修旅

行、ボランティア活動、市役所前松飾りなどを盛り込んでいく。また、総会後には鹿屋市緑化協同組合と共同で懇親会も開き、意見交換を深めたいと述べた。

購買、組合員の生産する緑化樹の共同販売、組合員の福利厚生に関する事業などを盛り込んだ15年度事業計画等を原案通り承認した。

鹿屋肝属緑化協同組合 営業力増し、生き残りを



造園工事の共同受注を決めた総会＝鹿屋市の大黒グランドホテルで

冒頭、立元理事長が「我々の仕事も厳しい状況で更にコストダウンなどが求められています。今後も、より一層の営業力を増加して生き残りを」と挨拶。続いて、同理事長を議長に4号までの議案が審

議され、組合員の事業に必要資金、苗木の共同購入、組合員の生産する緑化樹の共同販売、組合員の福利厚生に関する事業などを盛り込んだ15年度事業計画等を原案通り承認した。

県設備関連協議会代議員会

分離分割発注を陳情

県設備関連協議会(肥後勝司会長)は27日、鹿児島市の鹿児島管工事会館で15年度第24期代議員会を開き、分離分割発注などの継続陳情などを盛り込んだ新年度事業計画を決めた。

会の冒頭、肥後会長が「厳しい状況が続いている。設備の専門工事業団体として、さらなる団結を——と挨拶する肥後会長＝鹿児島市の鹿児島管工事会館で

団結を深め、各計画に積極的に取り組んでまいりたいと考えているので、会員各位のより一層の理解とご協力をお願いしたい」と挨拶。

続いて、肥後会長を議長に議事審議に入り、14年度事業・収支決算報告、15年度事業計画・収支予算案などを審議、すべて執行部原案通り可決承認した。



50年を振り返った感謝のつどい＝鹿児島市の城山観光ホテルで

【南日本放送(始良哲郎社長)】は27日、鹿児島市の城山観光ホテルで「創立50周年感謝のつどい」を開き、本社をはじめグループ企業、関係各位ら多数が出席して、戦後の50年間にわたり地域に役立つ情報発信を担ってきた同社の功績を祝った。

長年の功績称える

南日本放送

島根(長朝花節)で幕を開けた式典は、開局以来50年間の歩みがビデオ上映され、出席者らは映し出される映像に当時を懐かしむかのように見入った。主催者を代表して同社の堅山博美会長が「心温まるご支援の中、50周年を迎えることができた。戦後の地域復興の一助となればと県民による県民のための放送局を目指して頑張ってきた。まもなく地上波によるデジタル放送を迎えますが、今後も変わりないご支援を頂きたい」と感謝の意を述べ、続いて姉妹局である韓国の全州MBCの柳熙根(ユ・ヒ・ゲウ)社長が「これまでお互いが築いてきた技術や人的交流を今後も継続していきたい。両国及び両社の更なる発展と文化や人的交流等を図っていきましょう」と通訳を介して挨拶した。

南日本新聞社の大園純也社長の乾杯で歓談に入り、出席者らはこの50年間の振り返りながら昔話に花を咲かせていたほか、会場には当時の写真や業務日報、新聞等が展示されたブースも設けられ、懐かしむように見入る姿が見られた。